

## 第6学年 社会科学習指導案

研究主題：「自ら考え、伝え合い、学びを深める児童の育成」

～ICT機器の活用を通して～

高学年 目指す児童像：「自分にあった学び方・伝え合い方で、学びを深める児童」

1 単元名 「近代国家を目指して」（教育出版）

2 単元の目標

知識・技能	大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などについて年表や各種資料を用いて調べ、我が国の国力が充実し、国際的地位が向上したことを理解する。
思考力・判断力・表現力	大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などについて調べたことを基に、明治政府の意図や世の中の様子の変化を考え、文章で記述したり、説明したりする。
主体的に学習に取り組む態度	近代国家への歩みを進める日本の様子について主体的に調べ、問題を解決しようとする態度を養うと共に、多角的な思考や理解を通して我が国の歴史や伝統を大切にして、国を愛する心情を育む。

3 本単元における研究主題に迫るための手だて

(1) 効果的な ICT 機器の活用の工夫

① スプレッドシートの活用

本実践では、学習の記録・振り返り・まとめを1つのスプレッドシートで取り組ませる。そうすることで、児童が学習の見通しをもつことができ主体的に取り組むことができるようになる。と考える。

② デジタル資料集の作成・提示

児童が自由進度で調べ学習を行うにあたり、クラスルーム上に参考にして欲しいサイトを「デジタル資料集」という形で提示する。そうすることで、児童が教科書や資料集、タブレットなど様々な手段を選択して調べられるようになると共に、自分で新たな資料を探す際の一助となると考える。

(2) 伝え合う力を育む指導の工夫

① 学習環境・学習内容の選択化

本実践では、個別最適な学びの充実を図るために学習形態についても児童に選択させる。その中で協働的に資料を見合ったり、意見を交流したりする活動も奨励していく。また、その時間の中の学習内容を児童に選択させるにあたり、どの課題を学習しているのかを黒板に明示させることで、同じ課題を追究する児童同士が意見を交流しやすくなるようにする。

(3) 学びを深める指導の工夫（「振り返り」等）

① 毎時間の振り返りの確保

毎時間の最後の5分間を使って、振り返りを行わせる。その際、振り返りの視点として「学習内容の振り返り」と「学習方法の振り返り」を与える。特に「学習方法の振り返り」では、1時間の学習を通して、「その学習の仕方は適切であったか」「学習の進捗はどうか」などを振り返らせる。そして、次時ではどのように学習を進めるかまで考えさせることで、児童が見通しをもつことができ、主体的に学習に取り組むことができると考える。

② 新たな問いの設定

自由進度学習を進めていくことで、どうしても児童の間で進度に差が出てくる。そこで進度が早い児童に対しては、単元の学習に関連した新たな問いを自分で設定し、追究していくことを奨励する。そうすることで進度が早い児童はより主体的に問いを追究するのに加え、学習を進めるのに難しさを感じている児童への手立てを講じることができる。

4 単元の指導計画（全 時間扱い）

過程	時	・ねらい	○主な学習内容、学習活動 □ICT機器の活用（児童）	●指導上の留意点 ■ICT機器の活用（教師） ☆評価【方法】
つかむ	1	・ノルマントン号事件などを通して、当時の日本が置かれている状況を把握し、学習問題を考える。	○ノルマントン号事件について知り、不平等条約について確認し、学習問題を考える。 <b>日本はどのようにして国の力を高めていったのか。</b> ○条約改正までの年表を基に、学習計画を考える。 ・大日本帝国憲法ができる。 ⇒政治の仕組みはどのようなものであったのか。 ・日清、日露戦争が起こる。 ⇒戦争によって世界からどのように見られるようになったのか。 ・八幡製鉄所ができる。 ・北里柴三郎や野口英世が活躍する。 ⇒科学や産業はどのように発展したのか。 □スプレッドシートを使って自分なりの学習計画を立てる。	●前単元の内容に触れることで、児童が不平等条約について考えやすくする。  ■スプレッドシートの配布 ☆【主学態】 学習問題について資料を基に学習計画を立て、主体的に追究しようとしている。 (スプレッドシート・ノート)

調べる	2 〜 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で設定した課題について年表や各種資料を用いて調べ、理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1時で考えた学習計画に沿って学習を進める。</li> <li>○その時間の学習進捗を振り返り、次時の学習計画を立てる。</li> <li>□NHKforSchoolなどを活用して課題について調べる。</li> <li>□スプレッドシートにその時間に調べたことや考え、振り返りを書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■活用させたい資料を事前にClassroomに載せておく。</li> <li>●児童が今日の課題に取り組んでいるのかを黒板に明示できるようにし、児童相互の交流を促す。</li> <li>●適宜、机間指導を行い、進みが遅い児童にはキーワードを示したり、見るべき資料を示したりする。</li> <li>■Winbirdの巡回機能を活用して、児童の学習の様子を電子黒板に提示する。</li> </ul> <p>☆【知識・技能】</p> <p>本時の課題に対して、必要な情報を取捨選択しながら調べ、日本が国力を充実させ、国際的地位が向上したことを理解する。(記述)</p> <p>☆【思考・判断・表現】</p> <p>各種資料を用いて調べたことを基に、課題に対する自分の考えを表現している。(記述)</p>
	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の国力の充実を振り返り、当時の社会が変化したことを捉える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習してきた課題について振り返る。</li> <li>○明治末期から大正期の人々の様子を明治初期の様子と比べ、社会の変化について考える。</li> <li>□スプレッドシートに調べたことや考えを書く。</li> </ul>	<p>☆【知識・技能】</p> <p>人々の様子を比較することを通して、憲法の制定や2つの戦争などを経て、世の中の様子が変化したことを理解している。(記述)</p>
まとめる	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調べたことをまとめ、我が国の国力が充実し、国際的地位が向上したことを表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習問題を確認し、問題に対する自分の考えをまとめる。</li> <li>○課題に対する考えになっているか、交流をする。</li> <li>□スプレッドシート上の思考ツールに学習のまとめを掲載する。</li> </ul>	<p>☆【思考・判断・表現】</p> <p>大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などについて調べたことを基に、明治政府の意図や世の中の様子の変化を考え、表現している。(記述)</p>

## 5 実践後の成果・課題

### 【成果】

#### (1) 効果的な ICT 機器の活用の工夫

- 1枚のスプレッドシートでまとめたことで、児童が学習を振り返ったり学習の繋がりを意識したりすることができ、見通しをもって学習を進めることができた。
- 教師からデジタル資料集を作成・提示したことで児童が自分に合った資料を選択し、追究する主体的な姿が見られた。
- 他の教科でも学び方として活かすことができ、自分の考えを表現するのに効果的であった。

#### (3) 学びを深める指導の工夫（「振り返り」等）

- 「学習内容」だけでなく、「学習方法」についても振り返らせることで、児童が自分で学習を調整しながら取り組むことで見通しをもち、主体的に学習に取り組む姿が見られた。目指す児童像の「自分にあった学び方から学びを深めていく」につなげることができた。
- 新たな問いを追究する学習活動の余地を設けたことで、単元の後最後まで課題意識をもって主体的に学習へ取り組むことができた。

### 【課題】

#### (1) 効果的な ICT 機器の活用の工夫

- スプレッドシートの扱いやタブレット操作が苦手な児童にとっては、時間数が足りなかったり、まとめた内容が十分にまとめられなかったりした。低学年からタブレット操作に慣れるように、系統的な指導を行っていく必要がある。また、学習課題から自分に合った資料がどこにあるのかを選択するのに慣れる時間も必要である。

#### (2) 伝え合う力を育む指導の工夫

- 本単元では、集中して個別追究できる児童が増えた反面、他の児童と協働的に学ぶ姿が少なくなり、伝え合いについては一部の児童のみが行っているような状況になってしまった。教師の資料の提示の仕方や教室環境（座席配置など）も工夫し、他者との協働的な学びをより促進する必要がある。

#### (3) 学びを深める指導の工夫（「振り返り」等）

- 「振り返り」をきちんと書かせるためには時間の確保が必要であり、個別追究の時間との両立が難しく、授業時間外に取り組まざるを得ない児童が何名も見られた。そのため、ルーブリック評価を細かく選択できるよう項目を増やして提示し、授業時間内に適切な振り返りが行えるようにしていく必要がある。